

この定例会では、各会派の議員8人が議案や市政全般について質問をしました。

その概要は、次のとおりです。

質問および答弁(要旨)

市長の任期4年間の総括 (水曜日)

問 市長は、7つのキーワードに基づく重点政策を掲げ市政運営に取り組んでこられたが、一期目の主要施策である鞆港埋め立て架橋や、福山駅前広場整備などの事業がまだ継続しており、引き続き市政のかじ取り役として期待をする。厳しい財政状況が続いた4年間を、市長自らどのように総括するか。

答 前市長の合意と信頼の精神を引き継ぎ、市民との対話を基本にまい進した。同時に、7つのキーワードの下、ふるさと福山が全国に誇れるまちとなるよう、全力で取り組んできた。厳しい行財政環境の中、中長期的な視点で健全な行財政運営に努め、中央公園地区の整備、西部市民センターの建設といった都市基盤整備にも取り組

んだ。この間、沼隈町、神辺町と合併し、前市長が掲げた50万都市構想を実現することができた。

◇関連質問

・市長就任から3年6カ月を振り返って (新政クラブ)

交通政策・オムニバスタウン計画 (新政クラブ)

問 本市は、1月30日に国からオムニバスタウンの指定を受けた。これはバスをはじめとする公共交通機関の利用を促進し、環境にやさしく、高齢者などの交通弱者に優しいまちづくりを目指す政策だが、この計画の予算規模と施策の内容は。

答 この計画の総事業費は、指定に伴う補助制度を活用し、バス事業者の事業費負担を含め、今後5年間でおおむね10億円程度と見込んでいる。主な事業は、ゾーンバスシステムの導入、乗り継ぎターミナルなどの施設整備、低床バスの導入などである。今後は、市生活バス交通利用促進計画推進委員会に諮りながら事業を推進していく。また、引き続き地域と連

携し、地域特性に応じたバス運行の実現にも取り組む。



乗り継ぎポイントとなる沼隈支所バス停

平和社会の実現と男女共同参画 (公明党)

問 人類は、平和への確かな道をいまだに暗中模索している。だからこそ、女性がその能力を家庭から広く社会に開く、真の男女共同参画社会を実現することが、平和な社会実現の要素と考えるが。

答 本市では、平和非核都市福山宣言の趣旨を踏まえ、市民すべての願いである平和な社会の実現に向けた諸施策の推進に努めている。平和な社会を実現するために、さまざまな分野で人権の尊重

を基底に置いた施策の推進が重要である。男女共同参画の視点からは、このたび策定した市男女共同参画基本計画(第2次)に基づく施策の推進に取り組むとともに、平和な社会の実現に向けた諸施策の推進に努めていく。

国民健康保険について (市民連合)

問 高齢社会の進行や医療費の増大などで、2007年度の基金取り崩しが10億円を超え、残高も減少した。2008年度からは制度変更もあり、将来を展望したとき、一般会計からの繰り入れなど検討の余地はあると考える。安定的な制度運営という基本を踏まえた市民負担をどう考えるか。

答 本市では、事業の継続的な安定運営を基本に、年次的に被保険者負担の軽減に努めてきたが、2008年度の医療費を推計すると、被保険者に一定程度の負担の増加をお願いせざるを得ない。市民生活に配慮しながら、必要額の2分の1に基金を充当し、急激な被保険者負担の上昇を抑制した。

※ゾーンバスシステム：複雑なバス系統を整理して、途中に乗り継ぎ拠点のバスターミナルを設け、市街地中心部に向かう基幹バスと住宅地などの末端部を運行する支線バスに分けて運行し、定時性を確保するなど利便性の向上を図るシステム。